

## 序文

今回、宮崎修行先生とそのグループによって JEPIX が開発されました。その興味深い精妙な構造は、炎暑の昼下がり日本橋界隈の有名なうなぎやの軒下を通りかかったときに鼻先をかすめた、まことに気高くも食欲をそそる鰻香に似た印象を与えるものです。

そもそも会計学なるものは、どんぶり勘定では屋台程度のうなぎやでも良く経営を維持することはできないぞ、というところから出発したもので、近代経営に不可欠なツールであることは、いまさら申し上げるまでもない。環境経営についても同様であって、環境会計の裏付けなくしては、どのような環境対応も説得力はなく、持続させることはできません。

今日では、定量的分析に対して定性的分析の重要性が強調されるようになってきました。だからといって環境パフォーマンスなど定量的分析になじむ対象はあまさず定量評価の網に捕らえることをすすめなければ、ザルから獲物をスルリと逃がしてしまう結果になります。環境問題についてのコミットメントがなければ経営を維持できない時代になったといわれますが、環境報告書の「ごあいさつ」程度に TOP の署名があったところで、それが環境保全のコミットメントの要件を充足しているとは言いにくい。

「市民資本主義」の立場から申しますと、これは①セル・アクティブ・マネジメント②グリッド・インフォメーション・マネジメント③マニフェスト・マネジメントの3経営要素のうちの3番で唱えているもので、本来は主要課題について TOP が数値目標を掲げてそれに署名し、所定期間内の目標実現に関して企業としてのみならず個人的にも責任を負うのがコミットメントのあり方です。考え方としては、数値的な裏打ちがない意向の表明では空念仏に終わってしまうということですが。

もっと具体的に言えば、環境コミットメントには、TOP の署名つきの環境会計の裏づけが存在することが必要です。JEPIX による評価は、企業の位置測定や目標設定の妥当性について客観的根拠をあたえることができ、企業とステークホルダーとの間の対話を進めるうえで、共通認識形成の触媒になり得るものと思います。

ただし、ここで若干の問題点がなくもない。まずひとつは、JEPIX の役割として行政との距離を測るものと単純に割り切ってよいものなのかどうか。あるいは、指標や目標値として国が定めた基準値を無条件でストレートに採用してよいものなのかどうか、という点が気にかかります。環境問題とは結局は市民の実生活の問題である、との立場にたてば、行政イコール市民とは言いがたい。国家というものはうな重の料金をとって、どじょうを食わせるようなところがある。現在の市民感覚では、必ずしも「民主国家」の透明性や公正さを認めているわけではないので、そこに「主観」のズレがあります。

社会的信用度を高める方法としては、エコファクターの算出ないしフィルタリング、モニタリング、PDCA のための「ステークホルダー委員会」の設置による合意形成が有益ではないか。一般論として申せば、武官に対するシビリアン・コントロールに似た参加の仕組みがあったほうが、普及促進に役立つのではないかと、ということです。

もうひとつの問題は、企業評価のあり方が環境単独ではなくて、サステナビリティ評価に重点が移ってきており、それとの整合性をどうとるか、というところにあります。サステナビリティ会計などというものも提唱されるようになっていますが、定性分析との隣接部分があるだけに、一体化と役割分担というところでの、理論的整理作業が必要と思われます。

さらに付言すれば、凡そ企業というものは、千変万化する環境に適応していかなければ、存続できません。そういう意味できわめて動的な存在です。したがって、その定量的評価を固定的に捉えると、実行した途端に陳腐化する側面をもっています。また、評価という作業自体、特定の時点での状態を捉えるのではなく、その向かう方向を捕まえることでなければ実際の役に立ちません。誠にうなぎを素手で捕まえようとするのと同じで、逃げる方向をよく見定めて頭を捕まえなければなりません。多年度の集計から傾向を捕捉することは可能でしょうが、たとえばポテンシャルエネルギー的に、単年度で方向性をだす方法論の開発が伴えば、ダメージのみならずリスクを評価することができ、JEPIX による評価の有用性は増し、より多くの機会で活用されるものになると思います。

いずれにしても今回の JEPIX 開発の成功は、「環境パフォーマンスの定量評価手法の確立」という部分で、考える理想形を示したものであり、会計学的手法の新たな可能性の地平を、大河を見るように明らかにしたものと見てよいでしょう。環境経営学の発展に携わる者の一員として、宮崎修行先生とそのグループの方々の業績に敬意を表するとともに、この大河からさらに大きな「うなぎ」が獲られることを期待して止みません。(2003年夏・土用の日を前にして)

NPO 法人環境経営学会会長

三 田 和 美